一般廃棄物処理施設の維持管理に関する情報の公表について

（　2026　年度　サンライズクリーンセンター）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第４条の５の２に基づき、一般廃棄物の焼却施設であるサンライズクリーンセンターの維持管理に関する情報を公表いたします。

1. 処分した一般廃棄物（可燃ごみ）の量　■規則　第4条の5の2第1項第1号　イ　関係

区分		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度計
焼却量	1号炉	t	2,128.13	2,235.34	700.38	92.19	2,234.93	2,119.40	－						9,510.37
	2号炉	t	1,071.81	851.87	2,228.84	2,419.16	666.33	845.55	2,332.28						10,415.84
合計焼却量		t	3,199.94	3,087.21	2,929.22	2,511.35	2,901.26	2,964.95	2,332.28	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	19,926.21

2. 燃焼室中の燃焼ガス温度、集じん器に流入する燃焼ガス温度、排ガス中の一酸化炭素（CO）濃度（すべての日平均値の月平均値）　■規則　第4条の5第1項第2号　ト、リ、ヲ　関係

項目		月 単位	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年　度 平均値
燃焼室中の燃焼ガス温度	1号炉	℃	915	913	924	914	909	912	－						915
	2号炉	℃	927	907	898	894	914	903	899						906
集じん器に流入する燃焼ガス温度	1号炉	℃	179	180	176	184	186	184	－						181
	2号炉	℃	170	171	182	187	174	177	187						178
排ガス中のCO濃度	1号炉	ppm	1	2	2	3	2	2	－						2
	2号炉	ppm	1	2	2	2	1	2	2						2

3. 冷却設備、排ガス処理設備にたい積したばいじんの除去を行った日　■規則　第4条の5第1項第2号　ヌ　関係

項　　目	１　号　炉	２　号　炉
冷　却　設　備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。
排ガス処理設備	工場稼働中は自動で行われます。	工場稼働中は自動で行われます。

4. ばい煙量又はばい煙濃度測定結果　■規則　第4条の5第1項第2号　カ　関係

区 分	基準値	単 位	1号炉						2号炉					
			1回目	2回目	3回目				1回目	2回目	3回目			
排ガスを採取した年月日			2026年5月8日	2026年9月11日					2026年6月5日	2026年9月25日				
結果が得られた年月日			2026年5月22日	2026年9月29日					2026年6月18日	2026年10月8日				
ばいじん濃度	0.01	g/㎥N	0.001未満	0.001未満					0.001未満	0.001未満				
塩化水素濃度	40	ppm	28	3					3	25				
窒素酸化物濃度	50	ppm	34	31					27	30				
硫黄酸化物濃度	30	ppm	1未満	2					1未満	5				
水銀濃度	0.05	mg/㎥N	0.00034	0.00079					0.00022	0.00032				

5. 排ガス中のダイオキシン類濃度測定結果　■規則　第4条の5第1項第2号　カ　関係

区 分	基準値	単 位	1号炉						2号炉					
			1回目	2回目					1回目	2回目				
排ガスを採取した年月日			2026年9月11日						2026年7月3日					
結果が得られた年月日			2026年9月29日						2026年8月3日					
排ガス中のダイオキシン類濃度	0.05	ng-TEQ/㎥N	0.00095						0.0097					

【検査項目等の説明】

・ばいじん濃度　：物の焼却とともに発生する。このうち、すす、完全に燃焼した灰分、燃焼ならびに熱分解による固形粒子をいう。

・塩化水素濃度　：塩化ビニール樹脂等の燃焼の際に発生し、刺激臭を有する無色の気体である。自然界では火山活動等で発生する。

・窒素酸化物濃度　：石油、ガス等の燃料の燃焼に伴って発生し、その発生源は工場、自動車、家庭の厨房施設等多種多様である。

・硫黄酸化物濃度　：石油や石炭を燃やすとそれらに含まれている硫黄分が酸素と結合して発生する。天然には、火山温泉等に存在する。

・ダイオキシン類　：塩素、酸素、炭素、水素の存在下で、ものが燃焼するときに発生する有機化合物である。ごみ焼却、タバコの煙、自動車の排気ガス、野焼きのほか様々な発生源から副生成物として発生する。